

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

### 参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上PDCA）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日・調査対象 令和5年4月18日（火） 第4学年、第5学年

#### 3 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・算数・理科
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容



##### (2) 質問紙調査

- ① 児童質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問紙調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

#### 4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立小学校 69校（69校中）
- (2) 児童数 第4学年 国語 4,093人 算数 4,095人 理科 4,101人  
第5学年 国語 4,175人 算数 4,177人 理科 4,187人

#### 5 留意事項

##### (1) 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

##### (2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリ別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
  - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。  
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
  - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

##### (3) 質問紙調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

##### (4) 用語について

「カテゴリ別平均正答率」等の中で、学習指導要領において領域による内容構成を行っていない教科についても、内容のまとまりなどを「領域等」として表記した。

# 1 小学校第4学年 国語

## 平均正答率

(%)

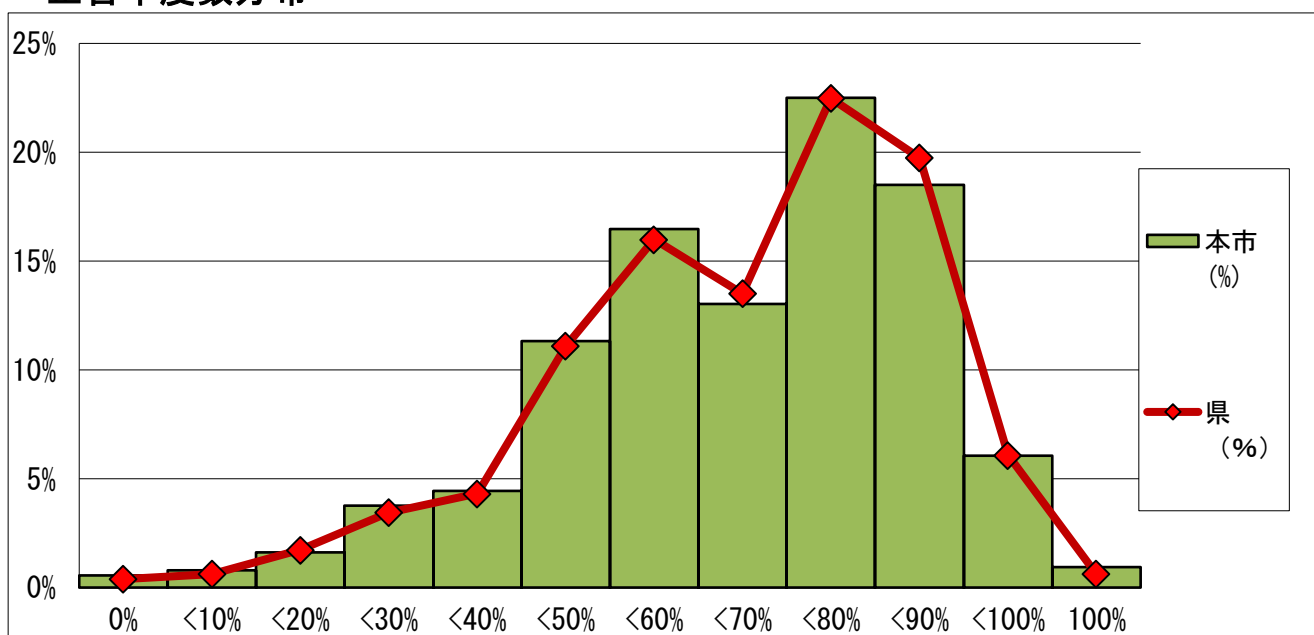
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差	a - b
教科全体	64.6	65.2	△0.6	

## カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	74.8	△0.1
	情報の扱い方に関する事項	58.4	55.0	3.4
	我が国の言語文化に関する事項	84.3	86.1	△1.8
	話すこと・聞くこと	66.7	66.9	△0.2
	書くこと	54.3	59.3	△5.0
	読むこと	55.6	55.2	0.4
観点別	知識・技能	74.1	74.0	0.1
	思考・判断・表現	58.0	59.1	△1.1

## 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 $\Delta 0.1$ ポイント)

- ローマ字で表記された言葉を読む設問の正答率は 58.0%で、県平均を 1.1 ポイント下回る。ローマ字を正しく読むことに課題が見られる。

### 情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 3.4 ポイント)

- 文中における単語の意味について、国語辞典に掲載されている意味から適切なものを選ぶ設問の正答率は 58.4%で、県平均を 3.4 ポイント上回る。国語辞典の使い方に関する技能に良好な状況が見られる。

### 我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 $\Delta 1.8$ ポイント)

- 漢字のへんを問う設問の正答率は 84.3%で、県平均を 1.8 ポイント下回る。漢字がへんやつくりなどから構成されていることを理解することに課題が見られる。

### 話すこと・聞くこと (県平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- 司会者の話し方の工夫を説明した文として適切なものを選ぶ設問の正答率は 75.3%で、県平均を 0.9 ポイント下回る。話し方の工夫を捉えることに課題が見られる。

### 書くこと (県平均との差 $\Delta 5.0$ ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くこと平均正答率は 44.9%で、県平均を 5.2 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えとそれを支える理由を書くこと平均正答率は 62.7%で、県平均を 4.4 ポイント下回る。理由を明確にして文を書くことに課題が見られる。

### 読むこと (県平均との差 0.4 ポイント)

- 物語を読んで人物の行動の理由や気持ちを捉える設問の平均正答率は 74.5%で、県平均を 1.3 ポイント上回る。叙述を基に、人物や場面の様子を適切に捉えることに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

ローマ字による簡単な単語(日常目にする簡単な単語)の表記の定着を図るためには、意図的に復習させることが必要である。特に濁音・半濁音・長音・促音・拗音・撥音の表記については、繰り返し書くことに加え、例えばコンピュータを用いてローマ字による入力の実践を行うなど、知識及び技能の定着を図る必要がある。

### 書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で自分の立場を明確にすること、二段落目にその考えを支える理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動をとおして、段落の役割や段落相互の關係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を記述する際の表現(「なぜなら～」「例えば～」等)を用いて書く学習が必要である。

## 2 小学校第4学年 算数

### 平均正答率

(%)

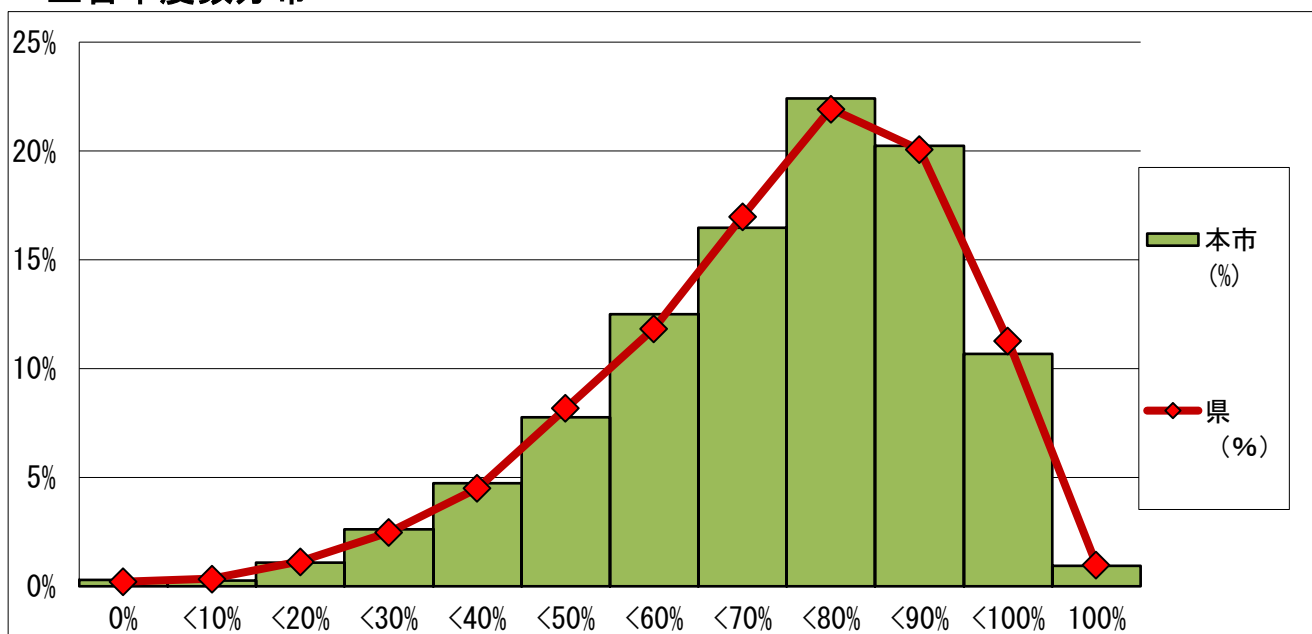
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	67.0	67.2	△0.2

### カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	67.3	67.4	△0.1
	図形	64.5	64.7	△0.2
	測定	74.7	74.9	△0.2
	データの活用	54.4	56.4	△2.0
観点別	知識・技能	77.6	77.8	△0.2
	思考・判断・表現	45.8	46.1	△0.3

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 数と計算 (県平均との差 $\Delta 0.1$ ポイント)

- 除法の立式をする設問の平均正答率は 68.0%であり、県平均を 1.8 ポイント上回る。テープ図を使って除法の立式をすることに良好な状況が見られる。
- 純小数の減法を整数の減法に直して処理する方法を説明する設問の平均正答率は 13.8%であり、県平均を 2.2 ポイント下回る。示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って小数の計算方法を説明することに課題が見られる。

### 図形 (県平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- 円の中心と円周を使って正三角形が作図できることを説明する設問の平均正答率は 33.9%であり、県平均を 0.5 ポイント上回る。円の性質をもとにコンパスを使って正三角形を作図することに良好な状況が見られる。
- 示された球の半径をもとに、筒の高さを求める設問の平均正答率は 63.4%であり、県平均を 1.3 ポイント下回る。半径と直径について理解し、球の性質を利用して長さを求めることに課題が見られる。

### 測定 (県平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- ある時刻をもとに、時間が経過する前の時刻を求める設問の平均正答率 81.1%であり、県平均を 0.9 ポイント上回る。時間の減法について良好な状況が見られる。
- はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問についての平均正答率は、50.1%であり県平均を 1.0 ポイント下回る。はかりを正確に読み取ることに課題が見られる。

### データの活用 (県平均との差 $\Delta 2.0$ ポイント)

- 2つの棒グラフを比較し、1目盛りの数が異なることに注意しながら読み取る設問についての平均正答率は 19.7%であり、県平均を 3.9 ポイント下回る。目盛りの大きさを理解し、棒グラフを正しく読み取ることに課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 数と計算

計算の技能の定着を図るためには、授業の終末に学んだことを確認する問題を設定して児童一人一人の状況を確認し、次時の指導に生かすことが大切である。また、学習して、ある程度の時間を経た後に再度計算する機会を意図的に設定し、その際、前の学年までに学んだ内容についても復習できるように配慮したい。特に、整数で計算してきたことを小数や分数でも計算できるようにする場合、数概念の拡張に伴う計算の方法の意味をしっかりと理解することが重要である。

### データの活用

表と棒グラフの学習では、身の回りの事象について観点を定め、データを分類整理して表やグラフに表し、データの特徴を捉えて考察したり、見いだしたことを表現したりできるようにすることが大切である。また、グラフの目盛りの付け方や読み方の知識・技能の定着を図った上で、複数のグラフを比較検討し、考えを伝え合う活動も、データの活用について理解する上で有効である。

### 3 小学校第4学年 理科

#### 平均正答率

(%)

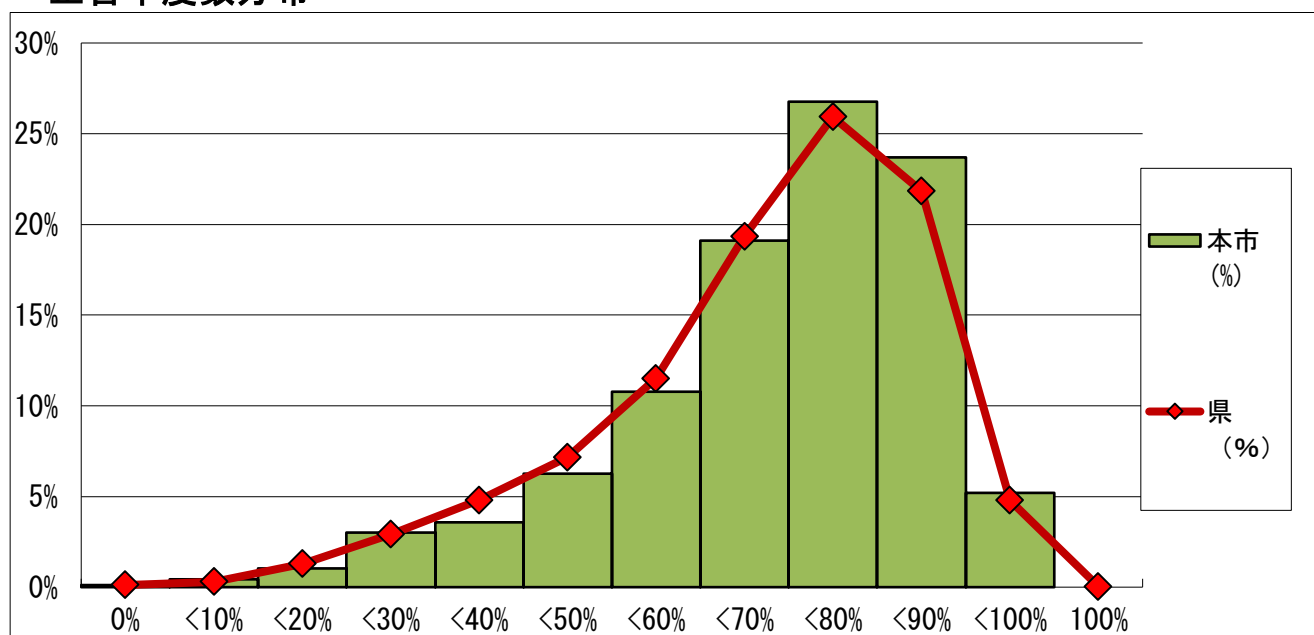
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差	a - b
教科全体	66.8	65.6	1.2	

#### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	76.2	75.1	1.1
	「粒子」を柱とする領域	44.5	44.5	0.0
	「生命」を柱とする領域	63.6	62.3	1.3
	「地球」を柱とする領域	66.6	64.9	1.7
観点別	知識・技能	66.8	65.4	1.4
	思考・判断・表現	66.8	65.9	0.9

#### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 1.1ポイント)

- ゴールに車を止めるために必要だと推測されるゴムをのばす長さを選ぶことについての設問の正答率は 58.3%で、県平均を 3.4 ポイント上回る。実験結果のゴムをのばす長さと車の動く距離の関係から、ゴムをのばす適切な長さを推測することに良好な状況が見られる。

### 「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 0.0ポイント)

- 同じ種類の木でできている積み木を答えることについての設問の正答率は78.7%で、県平均を 1.0 ポイント上回る。ものの重さから、どんな種類の物質かを推測することに良好な状況が見られる。
- 形を変えた粘土の重さについて正しいものを選ぶことについての設問の正答率は 44.8%で、県平均を 0.9 ポイント下回る。形を変えても重さは変わらないことについての理解に課題が見られる。

### 「生命」を柱とする領域 (県平均との差 1.3ポイント)

- アゲハが卵を産み付ける場所を選ぶことについての設問の正答率は 68.7%で、県平均を 7.8 ポイント上回る。生物が卵を産み付ける場所についての理解に良好な状況が見られる。
- モンシロチョウが食べるえさの量を選ぶことについての設問の正答率は 66.6%で、県平均を 2.9 ポイント上回る。生物の成長の時期により食べるえさの量が異なることについての理解に良好な状況が見られる。
- ホウセンカのようなすを観察した順に並べ替えたものを選ぶことについての設問の正答率は 13.8%で県平均を 2.2 ポイント下回る。植物の成長についての理解に課題が見られる。

### 「地球」を柱とする領域 (県平均との差 1.7ポイント)

- 正しい温度計の使い方を選ぶことについての設問の正答率は 75.1%で、県平均を 3.1 ポイント上回る。観測機器の使い方についての理解に良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 「粒子」を柱とする領域

形を変えた粘土の重さは変わらないことについては、身の回りにある形を変えられる物を広げたり、いくつかに分けて丸めたりするなどして形を変え、電子てんびん等で重さを比較して調べ、これらの活動を通して、差異点や共通点を基に、形が変わっても重さは変わらないことを捉えられるよう指導していくことが望まれる。

### 「生命」を柱とする領域

植物の成長の過程に着目して、成長による様子の変化を調べるときには、植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、果実がなって種子ができるという一定の順序があることを捉えられるよう指導していくことが望まれる。

#### 4 小学校第5学年 国語

##### 平均正答率

(%)

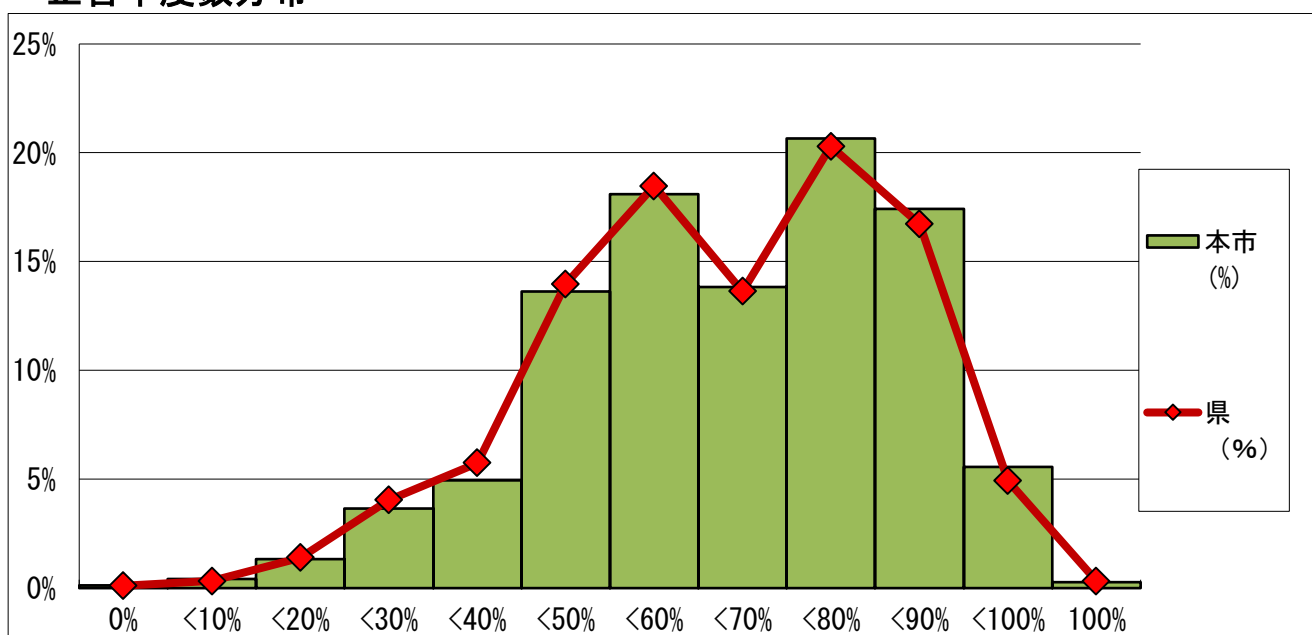
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	63.8	62.9	0.9

##### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	70.0	2.3
	情報の扱い方に関する事項	76.4	74.9	1.5
	我が国の言語文化に関する事項	82.4	78.9	3.5
	話すこと・聞くこと	81.9	82.0	△0.1
	書くこと	43.5	47.2	△3.7
	読むこと	51.4	49.8	1.6
観点別	知識・技能	73.6	71.3	2.3
	思考・判断・表現	57.1	57.2	△0.1

##### 正答率度数分布





## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 2.3 ポイント)

- 漢字の読み書きに関する設問の平均正答率は 77.8%で、県平均を 3.4 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。

### 情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 1.5 ポイント)

- 漢字辞典の使い方を問う設問の正答率は 76.4%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。漢字の調べ方には複数の方法があることを理解することに良好な状況が見られる。

### 我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 3.5 ポイント)

- ことわざについて問う設問の正答率は 82.4%で、県平均を 3.5 ポイント上回る。ことわざの意味や使い方について正しく理解することに良好な状況が見られる。

### 話すこと・聞くこと (県平均との差 $\Delta 0.1$ ポイント)

- 話し手の工夫を説明した文から適切なものを選ぶ設問の正答率は 77.0%で、県平均を 1.5 ポイント下回る。話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることに課題が見られる。

### 書くこと (県平均との差 $\Delta 3.7$ ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くこと平均正答率は 44.5%で、県平均を 4.8 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えを書くこと平均正答率は 36.3%で、県平均を 1.3 ポイント下回る。資料から読み取ったことを基に、自分の考えを明確にして文を書くことに課題が見られる。

### 読むこと (県平均との差 1.6 ポイント)

- 物語を読んで人物の気持ちや気持ちの変化を捉える設問の平均正答率は 47.6%で、県平均を 2.1 ポイント上回る。複数の叙述を結び付け、人物の気持ちを具体的に想像することに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 話すこと・聞くこと

話合い活動を行う際には、話合いの目的や進め方を確認し、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら話し合うことが大切である。話合いを始める前に、児童に目的や必要性を意識させ、目指す到達点を確認する指導が必要である。また、話合いの中で、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら、仲間と一つの結論を出したり、話し合われたことに対する自分の考えをまとめたりする活動を意図的に行うことが有効である。

### 書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書くこと、二段落目に資料から読み取ったことを基に自分の考えを書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、自分の考えを記述する際には、理由や事例を踏まえて書く学習が必要である。

## 5 小学校第5学年 算数

### 平均正答率

(%)

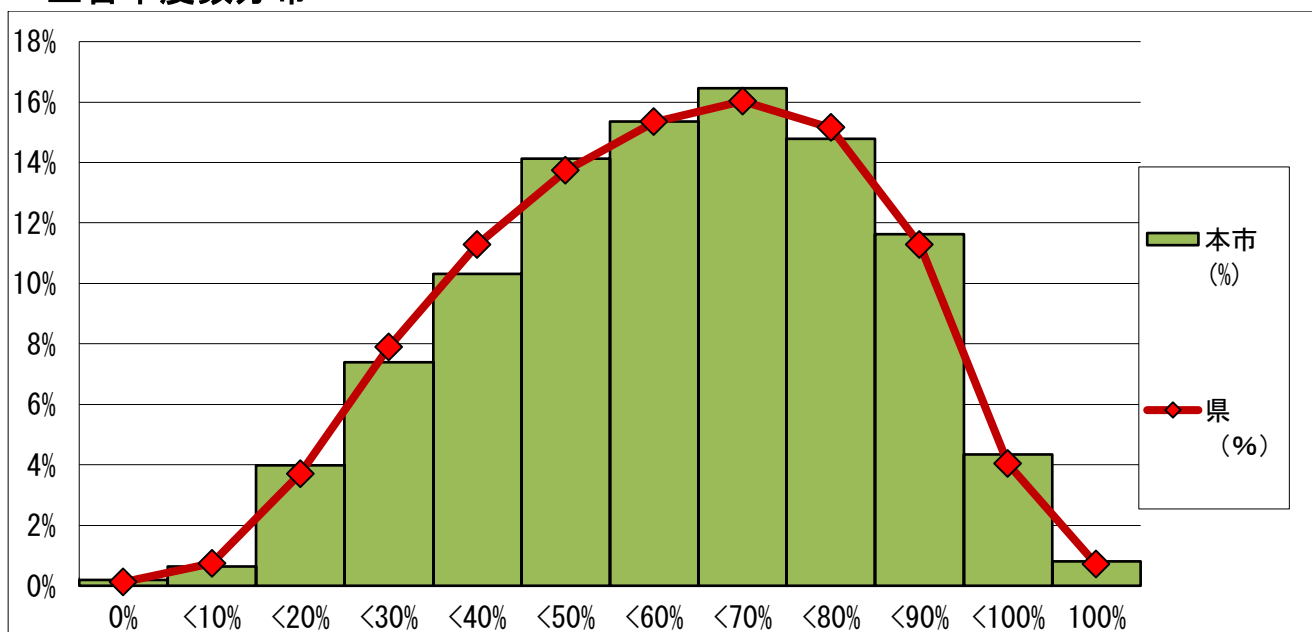
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	57.7	57.3	0.4

### カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	59.7	59.2	0.5
	図形	52.1	52.1	0.0
	変化と関係	56.1	56.3	△0.2
	データの活用	60.1	58.9	1.2
観点別	知識・技能	65.5	65.1	0.4
	思考・判断・表現	42.9	42.4	0.5

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 数と計算 (県平均との差 0.5ポイント)

- 数直線をもとに、異分母分数の大小関係について答える設問の平均正答率は 55.0% であり、県平均を 3.1 ポイント上回る。単位分数を理解し、数直線上に示された 2 つの分数の大小関係を比較することに良好な状況が見られる。

### 図形 (県平均との差 0.0ポイント)

- 分度器を活用して、180 度以上の角度を求める設問の平均正答率は 53.5% であり、県平均を 2.4 ポイント上回る。180 度以上の角度を求める際に、角度の加法性を理解し、補助線を作図するなどして求めることに良好な状況が見られる。
- ひし形を作図する設問の平均正答率は 71.3% であり、県平均を 3.4 ポイント下回る。ひし形の性質を理解し、コンパスを用いて作図することに課題が見られる。

### 変化と関係 (県平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- 2 種類の野菜の値段の上がり方について比較する設問の平均正答率は 52.4% で県平均を 3.2 ポイント上回る。2 つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明することに良好な状況が見られる。
- 1 辺が 1 cm の正方形を並べて階段の形を作るときの「だんの数」と「周りの長さ」の関係を考える設問の平均正答率は 22.7% であり、県平均より 2.3 ポイント下回る。伴って変わる 2 つの数量の関係について分かることを説明することに課題が見られる。

### データの活用 (県平均との差 1.2ポイント)

- 気温と地面の温度についての変わり方を比較する折れ線グラフを読み取る設問の平均正答率は 79.2% であり、県平均を 1.4 ポイント上回る。2 つの折れ線グラフから、必要な情報を読み取ることに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 図形

図形の学習においては、図形を構成する要素である辺の長さや角の大きさに着目することで、さらなる図形の性質が見いだされる。そして、見いだされた性質を基にすると、図形を作図することが可能になるとともに、身の回りから、平行四辺形、ひし形、台形の形をした具体物を見付けることができるようになる。図形の中に平行が何組あるか、角の大きさの関係はどのようになっているかなどの視点から既習の四角形について振り返り、統合的に捉え直していくことが重要である。また、学習して、ある程度の時間を経た後に再度作図する機会を意図的に設定し、その際、前の学年までに学んだ内容についても復習できるように配慮したい。

### 変化と関係

変化と関係の学習では、日常生活の具体的な場面において、表や式、折れ線グラフを用いて変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができるようにするとともに、伴って変わる 2 つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力を伸ばすことが求められる。授業では、表や式と言葉をつなげて理解を深め、問題解決を図ることが重要である。

## 6 小学校第5学年 理科

### 平均正答率

(%)

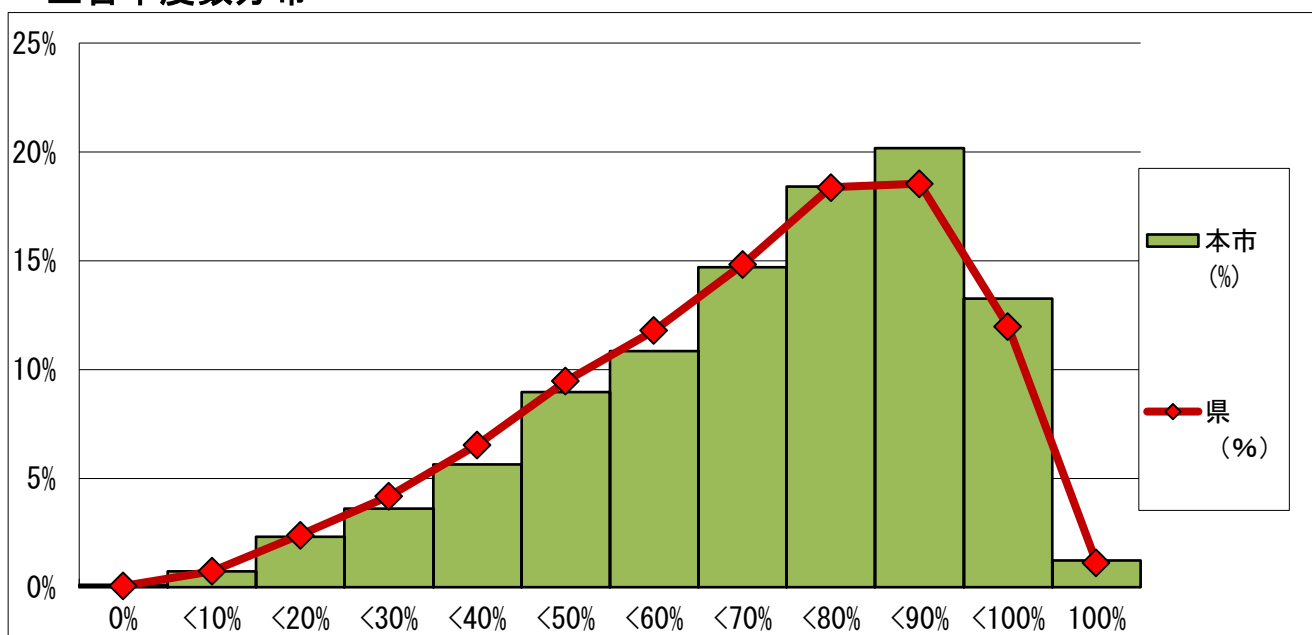
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差	a - b
教科全体	67.2	65.7	1.5	

### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	47.8	45.3	2.5
	「粒子」を柱とする領域	64.9	63.6	1.3
	「生命」を柱とする領域	78.2	76.8	1.4
	「地球」を柱とする領域	69.5	68.1	1.4
観点別	知識・技能	70.8	69.5	1.3
	思考・判断・表現	60.5	58.8	1.7

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 2.5ポイント)

- 電流が大きい回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測することについての設問の正答率は58.4%で、県平均を4.0ポイント上回る。電流の働きについて思考・判断することに良好な状況が見られる。

### 「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 1.3ポイント)

- 夏の線路のレールのつなぎ目がない理由を金属の体積の変化に着目して考察することについての設問の正答率は62.4%で、県平均を3.1ポイント上回る。温度による金属の体積の変化をもとに記述することに良好な状況が見られる。

### 「生命」を柱とする領域 (県平均との差 1.4ポイント)

- サクラの様子を選ぶことについての設問の正答率は61.1%で、県平均を3.2ポイント上回る。植物の生長の過程についての理解に良好な状況が見られる。

### 「地球」を柱とする領域 (県平均との差 1.4ポイント)

- 方位磁針の正しい使い方を選ぶことについての設問の正答率は61.1%で、県平均を2.4ポイント上回る。観測機器の使い方についての理解に良好な状況が見られる。
- 粒が大きい砂利で実験をしたときの結果から水たまりのできやすさを選ぶことについての設問の正答率は65.3%で、県平均を3.8ポイント上回る。雨水の行方と地面の様子について思考・判断することに良好な状況が見られる。
- 月の動きについてあてはまる言葉を選ぶことについての設問の正答率は68.5%で、県平均を2.1ポイント下回る。天体の動き方と動く向きを理解することに課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 「エネルギー」を柱とする領域

電流に関する学習では、回路を流れる電気の流れは直接目で見ることはできないため、簡易検流計の針の触れる向きやモーターの回る向きによって判断をする。また、電流の大きさは、豆電球の明るさやモーターの回る速さによって判断をする。今後も、直接実験・観察ができるものについては、予想や仮説をもとに、解決方法を発想し、児童が直接体験をして科学的に探究しながら、電流についての理解を確実なものにしていくよう引き続き指導していくことが望まれる。

### 「地球」を柱とする領域

天体に関する学習では、月と太陽の位置に着目して月の形の見え方と太陽の位置関係を実際に観察することが有効である。学校で観察ができない時間帯の月や星の位置の変化については、シミュレーションソフトや模型、プラネタリウムなどを活用することも考えられる。

## 7 小学校質問紙調査

### 【児童質問紙調査】

#### 調査結果（全 94 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、4・5年生ともに県平均と3ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4年生		5年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	90.8%	0.0	92.8%	0.6
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	70.3%	△3.5	72.7%	△2.4
3	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。	81.2%	1.1	86.0%	1.9
4	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	86.1%	△0.2	91.0%	0.1
5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	83.2%	△1.7	89.2%	0.1
6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	71.0%	△3.4	77.1%	△2.5
7	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	73.8%	△2.5	76.0%	△0.3
8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	76.8%	△0.8	79.8%	0.0
9	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	54.3%	△0.3	50.9%	1.3
10	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	34.7%	△2.4	37.1%	△2.6
11	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	66.2%	△4.2	70.0%	△1.6
12	家で、学校の授業の復習をしている。	58.6%	△5.1	60.9%	△4.4
13	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	58.5%	△2.1	60.5%	2.5
14	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※1時間以上	38.5%	△4.9	51.3%	△1.7
15	自分には、よいところがあると思う。	82.4%	1.7	82.9%	3.2
16	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	70.8%	1.9	72.2%	0.8
17	先生は学習のことについてほめてくれる。	86.8%	1.4	88.7%	1.8
18	家の人、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	86.1%	2.3	87.2%	1.6
19	家の人と将来のことについて話すことがある。	67.7%	1.9	69.6%	4.2
20	家の人と学習について話をしている。	75.3%	1.2	79.3%	3.2
21	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	36.5%	2.3	31.0%	2.5
22	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	79.8%	2.9	81.1%	4.4

## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

### 学ぶ意欲・授業について (No. 1～10)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は 90%以上であり、特に高い。授業の受け方のきまわりを作成・活用するなどして学習規律の徹底を図る指導が行われていると考えられる。
- No. 3 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。教材や発問を工夫し、児童の知的好奇心を大切にしたい指導が行われていると考えられる。ただし、No. 2 の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っており、学習課題を発見する学習過程を一層工夫するなどして、主体的に学ぶ態度を育てる必要がある。
- No. 5, 6 の肯定的な回答の割合は県平均を一部下回っており、学習の目標とめあてをノートに書いて共通理解を図る活動や、授業の終末に児童が本時で学んだことなどを振り返って書く活動を着実にやる必要がある。
- No. 9 の肯定的な回答の割合は 50%前後に留まっているとともに、No. 10 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫することが必要である。

### 家庭学習について (No.11～14)

- No. 11～12 の肯定的な回答の割合について、県平均を一部下回っている。家庭学習の習慣化に向けた指導を一層推進していく必要があると考えられる。

### 自分自身のこと・家の人や先生について (No.15～20)

- No. 15 の肯定的な回答の割合は県平均より高く、特に小5は3ポイント以上高く、上回り方が大きい。児童のよさを認め励ます指導が推進されていると考えられる。
- No. 16 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。地域の教育資源を活用した学習や、社会の問題について考える学習が積極的に取り入れられていると考えられる。
- No. 18～20 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭の理解や協力を得る取組が推進され、連携が図られていると考えられる。

### 毎日の生活について (No.21, 22)

- No. 21, 22 のテレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日1時間未満の児童の割合は県平均を上回っており、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組などの一定の効果が表れていると考えられる。

## 【学校質問紙調査】

### 調査結果（全 72 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり（児童の様子については 4・5 年生ともに 10 ポイント以上差のあるもの）本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題活用に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No. 9～12 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

### 〈児童の様子〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4 年生		5 年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	85.5%	6.7	91.3%	5.0
2	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	91.3%	7.0	88.4%	△1.1
3	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	84.0%	△3.8	89.8%	3.2
4	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	75.4%	△0.1	79.7%	1.6

### 〈学校の取組〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	95.6%	△2.1
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	88.4%	△1.4
7	授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	89.9%	0.7
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	98.6%	△0.2
9	児童の実態を把握して、宿題を出している。	85.5%	1.5
10	やり方を児童に十分説明して、宿題を出している。	87.0%	5.9
11	宿題の内容に応じて評価し、児童に伝える工夫をしている。	78.2%	5.9
12	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	91.3%	4.7
13	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	98.5%	4.9
14	全体で行う研修と小集団で行う研修を効果的に組み合わせている。	97.1%	4.4
15	本調査実施後、調査対象学年の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	85.7%	△6.1
16	本調査実施後、調査対象学年の 1 学年下の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	78.3%	△2.2
17	調査結果の分析を全教職員で行っている。	100%	1.8



## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

### 児童の様子 (No. 1～4)

- No. 1の肯定的な回答の割合は、県平均を上回っている。学習規律の維持徹底を図る指導が行われていると考えられる。

### 授業における学習指導 (No. 5～8)

- No. 5の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。思考力や表現力を育むため、言語活動の充実が図られていると考えられる。
- No. 8の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。指導と評価の一体化を念頭に置いた授業づくりが意識されていると考えられる。
- No. 6の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。自分の考えを話したり書いたりして人に伝えることにより、表現する力を育む指導の充実を図ることが必要である。

### 家庭学習の指導 (No. 9～12)

- No. 9～12の肯定的な回答の割合は、県平均を上回っている。家庭学習の習慣化に向けた取組が推進されていると考えられる。

### 校内研修の充実 (No.13, 14)

- No. 13, 14の肯定的な回答の割合は90%以上であり特に高い。各学校において、目指す授業の方向性を共通理解した上で、授業力向上を目指す実践が定着していると考えられる。

### 学力調査の活用 (No.15～17)

- No. 17の肯定的な回答の割合は100%であり、特に高い。調査結果をもとに成果や課題を把握し、学校全体で指導改善に生かす取組が推進されていると考えられる。
- No. 15, 16の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があると考えられる。